

東北福祉大学・鉄道交流ステーション 第29回企画展

東北・北海道を走ったブルートレイン

2016年12月6日(火)～2017年3月4日(土)

主催・会場：東北福祉大学・鉄道交流ステーション

午前10:00～午後4:00

休館日：毎週日・月曜日、および、祝日

協力：鉄道博物館・JR東日本東京支社 田端運転所・JR北海道・JR北海道文化財団

後援：宮城県教育委員会、仙台市教育委員会、河北新報社、東北鉄道協会
(社)交通環境整備ネットワーク、みちのく鉄道応援団

臨時休館：12月23日(金・祝)～1月6日(金)(年末年始期間)
1月14日(土)(大学入試センター試験日)

*その他、悪天候や大学行事等で臨時に休館する場合があります。
詳しくはHP等でお知らせします。

写真：渡邊裕太郎

「はくつる」「ゆうづる」、
本州型・北海道型「北斗星」、
「あけぼの」、「日本海」などの
ヘッドマーク、牽引機関車の
ナンバープレート、乗務行路表のほか、
切符や関連グッズ、模型、
時々に写された写真など、
鉄道交流ステーション開館以来
10年を支えてくれた愛好家の
秘蔵資料も大結集！

東北・北海道を走った ブルートレイン

昭和39年(1964)10月、東北ではじめての寝台特急「はくつる」が走りました。夕方の18:30に上野駅を出発した列車は夜の帳を駆け抜けて、青森駅に到着したのは早朝の6:10。使われた客車は、昭和33年(1958)に特急「あさかぜ」でデビューし「動くホテル」と呼ばれ羨望の的だった青いボディで固定編成の20系客車でした。このころから「ブルートレイン」という言葉は寝台列車の代名詞となりました。

以来、東北の地にも数々の寝台列車が登場。青い寝台客車をさまざまな機関車が牽きつなぎながら長距離を行く夜行列車は鉄道全盛時代の旅情と憧憬の象徴でした。しかし時代の変化と車両の老朽化などが相俟って、2015年の「北斗星」、2016年の「カシオペア」を最後に寝台特急は定期列車としては姿を消しました。

この企画展では、東北を走った「ブルートレイン」—すなわち、東北本線で上野～青森を往復した「はくつる」、常磐線経由の「ゆうづる」、奥羽本線等経由の「あけぼの」、あるいは関西から日本海側を通して青森に抜けた「日本海」、さらに青函トンネル開通後に札幌へと達した「北斗星」—を中心に、その歩みをたどり、魅力を紹介いたします。

なお、一般的に「ブルートレイン」と呼ばれる寝台列車は、どの範囲までを指すかとなると、いろいろな捉え方があります。この企画展では、東北および東北から北海道を走った機関車が牽くオール寝台列車を指すことにし、一部に寝台車輻がっていた列車や電車寝台特急については大きく扱いません。また、「カシオペア」についてもここでは補足的に含めることにしました。



蒸気機関車時代の「ゆうづる」ヘッドマーク(鉄道博物館蔵)



「ゆうづる」を牽引した蒸気機関車のナンバープレート(鉄道博物館蔵)



写真 左上「はくつる」C61+20系客車 1965 仙台駅 柏木瑋一
右上 秋田新幹線開業のため陸羽東線経由の「あけぼの」が廃止される直前の小牛田駅構内に停車する牽引機関車DE10重連、EF81 1997.3 個人
左下「北斗星」DD51重連 2011 室蘭本線 平田城
右下「日本海」EF81 2010 青森駅 渡邊裕太郎



主催・会場
東北福祉大学・鉄道交流ステーション

〒981-8523 仙台市青葉区国見1丁目19-1
ステーションキャンパス館3F
電話: 022-728-6612

<http://www.tfu.ac.jp/rmlc/index.html>

【アクセス】JR 仙山線「東北福祉大前」駅下車(仙台駅から所要時間約13分、片道大人200円、小児100円)徒歩すぐ
【市営バス】JR 仙台駅前(西口バスプール15番のりば)から「JR 東北福祉大前駅」下車(所要時間約25分、片道大人260円、小児130円)徒歩すぐ。国見ヶ丘三丁目福祉大野球場前行き(870系統)、市営バス実況営業所前行き(X870系統ほか)乗車。10分から20分前後の運行間隔があります。
※9番出発の「東北福祉大前行」に乗車しますと、国見キャンパスへ行きまうので、お間違えないようご注意ください。
※駐車場はございませんので、公共交通機関をご利用ください。

入場無料

鉄道模型館 (TFU スカイトレイン)

展示室開館日の各土曜日 午前11:00～午後4:00

特集:ブルートレインの鉄道模型が勢揃い!
実施日 12/10・1/7・1/28・3/4

